「会派くさしぎ・辻よし子市議会報告」第 33 号　2024 年 1 月 15 日発行

無所属　一人会派
HP「辻よし子と歩む会」で検索

会派くさしぎ 辻よし子の市議会レポート

〒 197-0802
あきる野市草花 3012-20
T&F：042-559-6941
携帯：090-9386-1275
e-mail：kusasigi@nifty.com

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

12 月議会の一般質問
その 1

五日市駅前開発は、仕切り直しを！

五日市駅前の市有地（現駐車場）に、約 3 億 4 千万円（設計・建築費）をかけて公共施設が造られようとしているのをご存じでしょうか。進め方に非常に疑問があるため、9 月議会に続き 12 月議会の一般質問でも取り上げました。

誰が考えた、何のための施設？
～五日市駅前拠点施設～

本来、駅前に公共施設を建てるのであれば、その必要性も含め、アンケート調査、住民説明会、市民意見交換会、ワークショップ等、様々な手法を用いて広く市民の声を聴きながら進めるべきです。それにはそれなりの時間が必要です。ところが、中嶋市長は、自身が深く関わっていた組織・五日市まちづくり協議会（以下、まちづくり協議会）からの提案を基に、駅前開発としては拙速としか言いようのない異例なスピードで、新年度から工事を始めようとしています。

中嶋市長がまちづくり協議会の発起人であることは、すでに 9 月議会で明らかにしましたが、新たな資料を入手したところ、市の契約したタウンマネージャーが、当時の中嶋議員を含む数名のメンバーに手厚い支援・指導を施し、まちづくり協議会を立ち上げていたことが分かりました。タウンマネージャーが市から委託された事業は、商店街リノベーション支援事業。委託料は 2 年間で計 1,500 万円。2021 年度の予算審議の際にタウンマネージャーの人件費が 1 日 5 万円もの高額であることから、私が疑問を呈した事業です。

12 月議会ポイント

●五日市駅前開発は仕切り直しを（1-2 頁）
●あきる野市の職員におけるメンタルヘルス不調による休暇・休職の状況（3 頁）
●議員の期末手当の引上げに反対（4 頁）
●議会のルールに反していませんか？（4 頁）

賛否の分かれた議案（12 月定例会議）

（○：賛成、×：反対　）	くさしぎ（辻 1 人）	自民党志清会（議長を除く 10 人）	公明党（3 人）	共産党（3 人）	未来（2 人）	リメンバー（1 人）	結果
議員の期末手当引上げ（4 頁）	×	○	○	×	×	○	可決
市長・副市長の期末手当引上げ	×	○	○	×	○	○	可決
教育長の期末手当引上げ	×	○	○	×	○	○	可決
引田駅北口土地区画整理事業　補正予算（第 3 号）	×	○	○	×	○	○	可決
トリガー条項の発動を求める陳情	○	×	×	○	○	○	不採択

それ以前の 2018 年度から 3 年間、東京都が計 3,000 万円で同一のタウンマネージャーを派遣していましたが、商店街地域の自立に向け、もう少し支援が必要とのことで市の事業として継続されました。しかし、実際には、タウンマネージャーの仕事の中心は五日市商店街の支援ではなく、まちづくり組織の設立だったことが、資料から明らかになりました。

タウンマネージャーが当時の中嶋議員を中心とする数人のメンバーを対象に視察や研修を行い、まちづくり組織設立に向けて検討を重ねていました。その過程では、株式会社など民間のまちづくり会社を設立し、駅前市有地を使った収益事業や市有地の整備等も検討されていました。その成果として設立されたのがまちづくり協議会です。

ところが、市の事務報告書の商店街リノベーション支援事業の説明には、こうした事業の実態を隠すかのように、「五日市まちづくり協議会」のことが一切書かれていません。そもそも、市が 1,500 万円もの予算をかけて委託したタウンマネージャーでありながら、その指導・支援を受けるメンバーの人選が不透明であったことも大きな問題です。さらに、駅前市有地の活用計画書では、このような経緯で作られたまちづくり協議会であるにもかかわらず、単なる一市民団体として記載されています。これら一連の市の姿勢は、市民に対してあまりに不誠実なのではないでしょうか。
また資料には、まちづくり協議会の事務局となった五日市活性化戦略委員会について、当時の中嶋議員が戦略的に委員の入替えを行ったことを示す記録も載っています。

現在、市民に公表されている駅前施設の計画は、抽象的な文言が並び、具体的な施設の中身が分かりません。今後の設計作業の過程で、市民の意見を聴く予定もなく、庁内にプロジェクトチームが出来ているわけでもありません。一方で、中嶋市長の肝いりで進めている移住・定住については、いつの間にか窓口の設置と職員の配置が設計委託の条件になっていました。

この開発の進め方が、いかにいびつで非民主的であるかは、他の自治体の進め方と比較すると一目瞭然です。一般質問では、丁寧に市民の声を取り入れながら計画を進めている国立駅南口の駅前整備の事例を紹介し、市長に仕切り直しを求めました。しかし、市長はまるで聞く耳を持ちませんでした。

行政としてあり得ない言い訳 ～瀬音の湯レストラン業者選定問題～

9 月議会の一般質問で、瀬音の湯レストランの業者選定について出来レースの疑いがあることを指摘しました。それを受けて市が調査をしましたが、各議員に配付された報告書の内容に唖然としました。

たとえば、どの応募者も提案していなかった項目（開店までのスケジュールや収支計画）に、なぜか点数が付けられ、㈱ do-mo が高得点を得ていた件は、各社の HP や他の資料から「推測」をして配点したのだそうです。業者選定において「推測」で評価するなどということが許されるはずがありません。しかし、市は問題なかったと結論づけました。

では、「推測」の仕方に公平性を欠く問題はなかったのかと質問したところ、「推測」で評価したという方法は共通しているので公平性にも問題はないという、驚きの答弁が返ってきました。ちなみに、開店までのスケジュールについて、審査員いずれも㈱ do-mo にだけ満点を付けています。理由は、メニューとしてカレーライス、焼きそば、タンメン、丼物の写真が資料に載っているので、迅速に準備ができると推測したのだそうです。なお、㈱ do-mo の社長は、まちづくり協議会のメンバーであり、駅前開発に関する提案書を市に提出した責任者です。

中嶋市長は、瀬音の湯を経営する㈱新四季の社長であり、㈱ do-mo の社長と親しい関係でもあることから、市民への説明責任があります。あり得ない理屈で押し切り、うやむやなまま幕引きを図るつもりなのかと市長に質しましたが、市長は答弁に立とうともしませんでした。

12 月議会の一般質問 その 2

あきる野市の職員における メンタルヘルス不調による休暇・休職の状況

近年全国的に、メンタルヘルスの不調（心の不調）で長期間休暇・休職となる地方公務員が急増しています。あきる野市も例外ではなく、より深刻な状況であることが、一般質問を通して分かりました。

●メンタルヘルスの不調で 1 ヶ月以上休んでいる職員の人数と全職員に占める割合

2019 年　6 人　1.4%
2020 年　12 人　2.6%
2021 年　10 人　2.1%
2022 年　19 人　4.0%
2023 年　18 人　3.8%　（11 月末現在）

全国の状況を見ると、メンタルヘルスの不調で休んでいる市職員の割合は、2021 年度（12 月 26 日現在の総務省の直近の公表データ）で 1.2% です。あきる野市は、その約 2 倍であることに、まず、驚きました。さらに、2022 年度は 4.0% と倍増しています。

●今年度の 1 ヶ月以上の休暇・休職者は累計で 21 人。その内、復帰した職員が 6 人、退職者が 3 人、現在も休暇・休職中の職員が 12 人です。12 人の内、5 人が係長級以上です。

休暇・休職中の 12 人に対して、職員（非常勤を含む）を補充できていない部署があり、その部署では、人数が少ないまま部署内でやりくりをしたり、他の部署の職員が掛け持ちで業務に当たっているという、たいへん厳しい状況にあることも分かりました。

こうした状況について、庁内で情報共有がされているかどうか確認したところ、情報共有はしていないという答弁でした。プライバシーに関わり、配慮が必要な問題であるため、取扱いが難しいとは思いますが、これだけの高い数値が示されている以上、組織全体の問題として深刻に受け止めるべきだと思います。どこの部署がどのように苦労しているのか、お互いの状況が分かっていないという組織の在り方に疑問を感じました。今のままでは、厳しい状況下なんとか職場を支えようと踏ん張っている職員の方々が、いつまた、支えきれずに倒れてしまわないかと非常に心配です。メンタルヘルス不調で休んでいる職員の回復や復帰後の勤務にも影響するのではないでしょうか。

また、休暇・休職とは別に、現在、課長職に 2 名の欠員がでており、3 名の課長が 2 つの課を掛け持ちしています。その緊急事態が半年も続いていることは異常と言えます。そこで、新たな配置の目処が立っているのか質問しました。しかし、「職員の人事異動に関することなので、答弁は控える」というノー回答でした。

さらに問題であるのが、課長に欠員が出ている課のひとつが、現在、五日市駅前開発事業を直接担当している課だということです。市政 30 周年に合わせた施設建設を目指す中嶋市長の進め方を、リーダーシップがあって素晴らしいと評価する向きもあるようですが、強引な進め方がされ、その裏で犠牲になっている職員がいるのではないかと、たいへん危惧しています。

最後に、市長と副市長それぞれに職員の置かれた状況に対する見解を求めましたが、具体性のない紋切り型の答弁からは、現状に対する危機意識が感じられず、今後の市政運営にますます不安が募る結果となりました。

一般質問の動画を
ぜひご覧ください。

議員の期末手当の引上げに反対

議員になって今回で９回目の条例改正になります。議員の期末手当については、コロナ禍で２回の引下げがありましたが、それ以外は毎回引上げがされてきました。これまで引上げの条例改正にはいずれも反対し、引上げ分は法務局に供託しています。今回もその姿勢に変わりはありません。

特に、社会的格差が広がり、長引く物価高騰によって、経済的弱者ほど、ますます厳しい生活を強いられている昨今の状況に対しては、直接国政に関わる立場にはない一地方議員であったとしても、政治を担う者としての責任を感じています。その意味からも、自らの期末手当の引上げには賛成できません。

また、あきる野市では、議員報酬を変更する場合には、特別職報酬等審議会へ諮ることになっていますが、現在の金額の妥当性を検証するために、定期的に審議会を開く形にはなっていません。期末手当の変更については審議の対象にすらなっていません。

一方、多摩 26 市の中には定期的に審議会を開催している自治体もあり、羽村市では「議員は兼業が可能であるなど、一般職の職員とは異なることから、期末手当の支給月数については、その都度、特別職報酬等審議会に諮って決定することが適当である」として、審議会に諮っています。あきる野市においても、他市の事例を参考に、特別職報酬等審議会の在り方について見直す必要があると思います。

議会のルールに反していませんか？

今回の一般質問では驚くような出来事がありました。ひとつは、事前に通告してあった質問に対して、市長がいきなり反問権を使ったことです。反問権とは、市長等が議員の質疑・質問の趣旨を確認するために議長の許可を得て質問する権利です（あきる野市議会基本条例第 10 条･逐条解説）。

ところが、中嶋市長の質問は、私の９月議会での一般質問の根拠を示せという内容であり、今回の質問の趣旨を確認するものではありませんでした。もちろん根拠を示すことはできますが、そのようなやり取りをしていては限られた時間が削られ、十分な質問ができなくなります。９月議会から３ヶ月もあったのですから、その間に私に確かめれば済む話です。こういう「反問権」の使い方は不適切であり、すべきではありません。今回は仕方なく対応しましたが、悪しき前例にならないことを願うばかりです。

もうひとつは、一般質問の最後に瀬音の湯に関する質問をした自民党志清会のＹ議員についてです。Ｙ議員は、私の一般質問に対して「根拠のない批判」で「誹謗中傷に過ぎない」と批判しました。この批判にこそ、根拠がありません。そもそも、一般質問は行政に対して質問をする場であり、議員間の議論の場ではありません。「議員提要・議会運営等に関する申し合わせ事項」では、「一般質問の際、他の議員の発言に異議を唱えるような発言は控える」とのルールが示されています。先に一般質問を終えた議員に対して、後から一般質問に立った議員が異議を唱えることは、反論の機会がない中での一方的な批判になり、フェアな議論ではないからです。

一方、中嶋市長はＹ議員からの質問を受ける形で、私が確たる根拠もなく㈱ do-mo の名を挙げたと批判をしました。しかし、既に市の調査報告書には㈱ do-mo の名が記載されています。中嶋市長が㈱ do-mo への影響を心配するのであれば、㈱新四季の社長として、もっと詳細な事実を明かし、出来レースでなかったと言える明白な根拠を示すべきです。

Ｙ議員の質問は申し合わせ事項に反するため、発言を撤回するよう、後日議長に申し入れました。他の議員からも疑問の声が上がり、会派代表者会議で取り上げられましたが、結局、取り消されず何事も無かったかのように終わってしまいました。

今の議会には、残念ながら、自浄能力が失われているのではないかと感じました。

会派「くさしぎ」は、「草の根市議」から取った名前です。政党や大きな組織に属さず、市民の横のつながりを大切に、草の根民主主義を目指して活動しています。

現在は、辻よし子だけの一人会派です。

＊クサシギは水辺の野鳥です→

辻よし子プロフィール：1960 年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995 年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11 以後、脱原発の市民活動を始める。2015 年 10 月の補欠選挙で初当選。現在９年目。常任委員会は環境建設委員会。広報広聴委員会委員長。夫、次男、ネコ１匹と草花に暮らす。

HP をご覧ください！